

† 「見よ、おとめが身ごもって男の子を生み、その名はインマヌエル（“神、わたしたちと共に”の意味）と呼ばれる」 - イザヤ書 7章 14節 -

クリスマスまで残すところ一週間となりました。教会は毎年、待降節の第三週目の日曜日を迎えると信者に「喜びなさい！」と呼びかけ、大きな喜びのうちに待降節を過ごすように促します。何かを我慢したり、嫌なことにも挑戦したりして過ごすことも大切なのですが、訪れるもの（イエス様の誕生）が神さまからの素晴らしいプレゼントであることを知っているならば、そこには大きな喜びが伴ってはいなくてはならないということを教えているのです。

実は、神さまからの素敵なプレゼントが贈られるということは聖書をとおして前もって知らされてきました。いわゆる“預言”によってです。旧約聖書の中で確認することができる預言のうち、イザヤの預言書 7章 14節にある言葉は特に有名で、そこには「インマヌエル」である方について予言されています。ヘブライ語（当時のユダヤ人が使っていた言葉）で“神、わたしたちと共に”という意味で、キリスト教徒はこの方こそイエス様であると信じているのです。この意味において、クリスマスはすべての人の中に神さまが来て下さる喜びの日なのです。つまり、対面してお迎えするのみならず、わたしたちの中に来て下さるという神秘に満ちた日なのです。

第三回目のテーマは「すべての人の中に灯る温かな火」です。

12月18日、クリスマス会において子どもたちに次のような話をしました。「一本のローソクの火では周りは少ししか明るくならないけれど、たくさんの火があればもっと明るくなるよね。今日、すべてのローソクに火が灯って、みんなの中にも火が灯りました。この温かな火はイエス様というプレゼントをいただいたしるし。だけど、火は大切にしないと消えてしまうことがある。消えてしまわないように大切にしてください。一人ではなく、みんながこの火を大切にしておいたら、泣いている人や困っている人のために、明るく照らしてあげることができるよ。いつもイエス様が一緒にいることを忘れないで。」と。

今日（12月18日）、子どもたちのうちにも温かな火が灯りました。この火による温かな光が子どもたちのこれからの日々を照らし、周りも照らされていくことでしょう。「インマヌエル」としてこの世に誕生されるイエス様が子どもたちのなかに共にいて、皆さんと一緒に子どもたちの成長を見守り続けて下さいます。

クリスマス。神さまはイエス様をとおして人間と共に歩まれることを望まれ、すべての人の中に来て下さいます。わたしたちがもっと、自分の中にもおられる神さまの存在を感じ、大切な子どもたちをはじめ、すべての人と共に新しい一年のスタートを切ることができますように……。よいクリスマスと新年をお迎えできますように。